

# とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート

2013.1 January vol.24

## 新年明けまして

### おめでと〜う〜ぶ〜ざ〜い〜ます

#### 新春にあたり皆様のご多幸をお祈り申し上げます

旧年中は、皆さまの多大なるご支援をいただきありがとうございました。皆様の声が少しでも多く議会に届けるよう取り組んでまいりました。特に、昨年はいじめによる中学生の自死事件が起きるなど、子どもたちをめぐる環境の整備が必要なことを改めて痛感させられた年でもありました。次代を担う子どもたちが健やかに育つ環境を整えて行かなくてはなりません。社会全体でしっかりと子どもたちを支える状況をつくっていくためにこれからも努力してまいります。本年も引き続き、皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

#### 十一月定例議会

今回の11月定例議会では初めて一般質問に立ちませんでした。11月16日に衆議院が解散し、急な選挙に質問のための調査時間が取れず、やむなく質問を断念しました。これまで毎回質問することを私の議員活動の一つの目標としていました。民主党島根県連幹事長、こむろ寿明総合選対事務局長として選挙を優先させることにしました。ご支援していただいている皆様には、貴重な機会を行使できなかったことをお詫言申し上げます。

11月19日開会の11月定例議会では、国の交付金の追加内示等に伴うものなど補正予算案等の当初の提案に続き、国の経済対策に呼応して事業を実施するためのものや人事委員会勧告による給与改定など、3回にわたって提案された90億円余の補正予算案と、地方分権改革に伴う条例制定などの提案がありました。こ

これらの議案は、審議の結果すべて採択され、12月14日に議会は閉会しました。

#### 経済対策による雇用の確保

今回の補正予算の多くは国の経済対策に呼応したものです。減災・防災対策や農林漁業の競争力強化のための基盤整備、成長分野として、期待される分野を中心とした公共事業55億円余、雇用機会創出のための基金増設9.6億円、保育所の整備費等の支援3.4億円などがあります。

なかなか上向かない地域経済が、この経済対策で地域や住民に元気が出てくることを期待するものです。そのためにもこうした予算が活かされていくよう、これからはしっかりと監視していかねばなりません。

#### 地方分権改革

今議会に提案された条例案は34件と通常に比べ多い本数でした。これは地方分権改革に伴い、国の権限が地方に移

譲されたことに伴うものです。これまで国で決められていた整備基準や設置基準などが地方の裁量で決めることができるようになったことによるものです。

福祉施設の人や設備、運営などの基準、道路の構造、公営住宅の整備や入居資格などの基準を地域の実情に合わせて決めることができるようになりました。国の標準基準を参考に今回定められましたが、今後は実情に合わせて県で改正も可能となり、より現場の声を生かすことができるようになります。今後こうした条例が実態に即しているのかきちんと見定めていくことが必要です。

#### ポスト神話博

今年度の目玉事業であった「神話博しまね」が終わり、この総括と今後の取り組みについて推進議員連盟の総会で報告がありました。

特設会場での入場者数は目標の40万人を大幅に上回る72万9千人、大社周辺エリアの



集客も目標の140万人を上回る200万人超と数字から見れば大成功と言えるでしょう。県内全域で波及効果はどううかといえ、全県の入込客数は前年比5%増ですが宿泊客数はほぼ前年並みという状況でした。

今年5月には出雲大社「平成の大遷宮」があり、これにつなげて大社周辺の事業展開が予定されていますが、県内の観光事業への波及とこれによる地域活性化が今後の課題といえます。テレビや雑誌でもこの地方のことが様々に取り上げられましたし、京都、東京で行われた出雲展などによって関心が

集まっている今のうちに、観光客を継続して引き寄せる取組みが必要です。

#### 新年度予算・政策知事要望

1月10日、民主県民クラブで、来年度の県の予算・政策についての要望書を提出しました。

年末の総選挙による政権交代によって、これまで民主党が実施してきた政策が転換されないよう、特に農業再生に効果が出ている戸別所得補償制度や、教育支援として高校授業料無料化などの事業が、今までもおり実施できるよう県として取り組まれることを求めました。また、雇用の

確保や農林水産業への支援、福祉や医療の充実、再生可能エネルギーの活用、離島中山間地域で住み続けられる地域づくり、教育への支援など32項目にわたって要望しました。知事からは「これからの予算編成で対応を検討すること」の回答でした。



知事へ要望内容を説明

発行者 角 智子 〒690-0064 島根県松江市天神町132  
 TEL.(0852) 28-8880 FAX.(0852) 28-8881  
 E-mail sumi@tomachan.net  
 U R L http://www.tomachan.net/

# とまちゃん通信

## 国の壁に挑む

東京都杉並区長の田中良さんのお話を聞く機会がありました。「国の壁に挑む」と題して、自治体区域外での特別養護老人ホームの整備をめぐる、様々な壁を突破していった経過について話されました。杉並では高齢化が進む中、特別養護老人ホームへの入所を希望して待機する高齢者が1000人もおり、この問題の解決に向けて施設整備を進めています。

しかし、都内で整備となると、地価が高いため整備費のコストが高くなります。そこで、区が所有している、喘息などの病気を抱った子どもの転地療養を目的に造られた南伊豆健康学園の利用者が減っていることからこれを廃止し、その跡地に特養を建設する計画を立てました。もちろん、子どものためには他の対策が進められています。

ところが、法律や制度の壁に阻まれ進まなくなり、その障壁を打ち壊していくため、

設置県の静岡県やあるいは国と何度となく協議をしていった中で、先駆的事業として国に採択され、現在整備が進められています。

前例のない先駆的な取り組みには、なかなか、国も自治体も動きだそうとしますが、しかし、高齢者の施設の整備は必要なことであり、その点からの事業への熱意と、あきらめない継続した取り組みが今回の事業実施につながりました。

こうした熱意を持って住民のために動くかどうかが首長に問われるところです。

さて、この話は今後加速化する高齢化、特に要介護者の増加に対して施設整備がなかなか追いつかないという現状にどう対応するかということですが、島根県でも養護老人ホームの入所待機者が増えています。(表1)いろいろなみんなで知恵を絞って対策を考えていかなければなりません。

## 島根原発の今後

10月4日に

総務委員会が開かれ、原子力発電に関する事項については、常任委員会2日目に開かれることになっており、常任委員会が1日で終わった委員が参加できるようにしています。私も前日で委員会が終わっ

特別養護老人ホーム数(H24.4.1)		89施設	定員4,886人
申込者数(H24.1.1) 全体		6,603名	
内 訳	要介護度1	733名	
	要介護度2	1,266名	
	要介護度3	1,509名	
	要介護度4	1,636名	
	要介護度5	1,459名	
以上のうち日常生活においてほとんどに介助を要するとされる要介護度4以上の方で、在宅からの申し込み人数		957名	
1年間の入退所者数		1,000人程度	



建設が進む3号機原子炉格納容器

席しました。

今回は、先に行われた島根原発2号機の安全性に関する総合評価(ストレステスト)一時評価結果についての報告でした。この報告によると、島根原発が想定していた600ガルの揺れの1.69倍まで耐えられること、また外部電源によって最大107日まで対応できることなどが報告されました。また、指摘されている活断層を考慮したうえでの評価であることも報告されました。さらに津波も考慮されたうえでこの結果は、これまでに取組まれた安全対策も踏まえての結果です。

委員からの質問に、これまで、昨年の震災以来66回の訓練を行い今後いろいろな想定の下で訓練をすることが中電から報告されました。また、今後については、「安定供給を考えると、エネルギーの選択肢を多くもつことが必要、安全性を確認して頂き、稼働させて頂きたい」と電力会社から述べられました。

今後、1、2号機の再稼働、3号機の稼働については議論となりますが、代替えエネルギーの確保を考えながら

この問題について考えていかなければなりません。特に立地県、立地市の住民の皆さんの意見を尊重し判断しなければなりません。

政権が交代し、これから再稼働・稼働に向けた動きが活発化してくると思われ、地域住民を抜きにしての議論ではいけません。

また、稼働すれば、使用済み核燃料が増えていくこととなります。この問題も考え合わせながら議論していかなければなりません。

## 再生可能エネルギーの活用

民主党島根県連エネルギー政策プロジェクトチームで、県内の太陽光発電、風力発電、小水力発電、バイオマスエネルギーの各導入の現状と、24年度の県の取り組みについて調査を行いました。

県では今年6月に再生可能エネルギー導入促進協議会を設置し、再生可能エネルギーの活用に向けた取り組みへの支援や普及啓発、調査研究を始めています。また、メガ

再生可能エネルギーの活用状況など聞く



小水力発電などの再生可能エネルギーの活用

ソーラーの候補地として4箇所の県有地を挙げ発電事業者を募集、先ごろ事業者も決定し設置に向けての準備が進められています。

昨年の福島原発事故を受け、脱原発の方向に進む中、代替エネルギーとして再生可能エネルギーの導入の動きは加速しています。

また、中山間地域研究センターでは、木質バイオマスエネルギーの活用技術開発とマイクロ水力発電システム実証事業に取り組みんでいます。林地残材や竹など未利用資源の燃料化により発電や発熱を農業用ハウスや集会所などで効率よく活用することや、小さな水力を活用して発電し、農業用ハウスに活用すること

をめざし、マイクロ水力発電機や高能力蓄電池、バイオマスボイラーの能力アップを目指すといった開発などに取り組んでいます。

地産地消の再生可能エネルギーの活用を促していくことが、結局は負担が少なく効率的なエネルギー利用となっていきます。これらの取り組みが進むよう、より効果的な方

策を考えていかなければなりません。

## 民主党惨敗の総選挙

昨年12月16日あった総選挙では、国政に皆様の声がかせるよう、引き続き島根から皆様の代表となる国会議員を送りだそうと活動いたしました。民主党の大敗を喫することとなりました。そして、島根県から民主党の議員として活躍したごころ寿明さんの再選も残念ながら叶いませんでした。応援していただいた皆様にお礼申し上げます。また、このような結果になりましたことを心よりお詫言申し上げます。

国政にあらゆる階層の声が生かされていくのが今後の課題です。いろいろなルートを使って、出来る限り皆様の声が国政に届くよう、今後とも私も努力してまいりますので、引き続きのご支援をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

## お知らせ

総選挙の結果の反省をもとに次に向けて再出発の年です。これからもより一層皆様の声が政策に生かせるよう取り組んでまいります。お声がけいただければ皆様のごころへまいりますので、よろしくお願いたします。

次の定例県議会は2月21日から3月21日までの29日間の会期予定です。お時間のある方は傍聴にお出かけください。また、インターネットで中継されていますのでご覧ください。

【問合せ先】TEL28-8880